©神奈川新聞社　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します

県立湘南高校創立100周年

トップリーグで活躍

ラグビー選手 栗原 大介さん

ラグビートップリーグのシャイニングアークス東京ベイ浦安で活躍する栗原大介選手(31)。ナンバー8やフランカーとして、身体能力の高さとオールラウンダーなプレーが持ち味だ。

身長181㌢、体重100㌔以上だが、「けっして大きい方ではない。その分、仕事量でこなしている」と話す。「ボールを持って突破している場面がピックアップされるが、ラグビーはそうではない。タックルするまでのアプローチで、相手の攻撃のオプションをいかに狭めるか、などボールを持っていない時の動きが重要だ」。玄人好みのプレーが身上だ。

ワールド杯で日本中が熱狂した2019年には、リーダー会議幹事長としてトップリーグのPRに知恵も絞った。「小学校を回ってラグビー教室をしたり、小児病棟で長期療養中の子どもたちを励ましにも行った」

中学3年でラグビーを始め、部のある県立高校から「チャリ通（自転車通学）できる湘南を選んだ」。3年で国体の代表に選ばれ、神奈川代表が初優勝。誘いがかかった慶大は、部員150人の大所帯だが、スタメンの座を獲得していく。

順風満帆に見えたが、けがに苦しんだ。「特に2度目の右足の前十字靱帯断裂は、手術後のリハビリ期間も短く、今でも足が痛む。それでも仲間と試合し、時間や気持ちを共有する幸せを知っているだけにやめようと思ったことはない」

自らの経験を振り返り「後輩たちには、今の自分で評価して将来を決めないでほしい」と呼びかける。「自分のしたいことにトライして、それで失敗しても、その先にいいことがある。それは成功という形ではないかもしれないけど積み重ねが大切。そして『弱いは強い』ということ。自分の中の弱さを知ってさらけ出すのは大事なスキルだと思う。弱いことは決して悪いことではない」

各界で活躍する卒業生

最も注目される20代

作家 辻堂 ゆめさん

今最も注目されている20代のミステリー作家が辻堂ゆめさん(28)＝ペンネーム（本名未公表）。東大在学中に「このミステリーがすごい！」大賞優秀賞を受賞してデビュー。初めて書いた非ミステリー小説「十の輪をくぐる」（小学館）は今年の吉川英治文学新人賞候補に選ばれた。

最新作「トリカゴ」（東京創元社）は、自身初の警察小説。「社会問題になっている無戸籍に焦点を当てた」。女性刑事が事件捜査中、無戸籍の人が隠れ住んでいる生活共同体を発見し、心に葛藤を抱きながら事件を解決していく。

これまでは、探偵や刑事が登場して事件を解決するという「狭義のミステリー」は書かなかった。読者にふとした疑問や謎を抱かせ、叙述トリック（先入観などを利用して読者を欺く手法）などを使い、引き込んでいく「広義のミステリー」作品だ。

「十の輪をくぐる」では、認知症の母親がつぶやいた「私は東洋の魔女」に、想像を巡らさせられた。二つの東京五輪の時代の詳細な描写に懐かしさを感じながら、中高年夫婦や親子の心の機微、介護などさまざまな問題について考えさせられる。が、読み終わると幸せな気持ちになれる。

「そう感じていただけたなら、うれしい。私もそういう作品が好きでよく読んでいるので」と読後感を大切にしている。伏線など計算尽くされた構成は、「普段から、これは面白いとか、アイデアが浮かぶとメモを取る。その膨大なメモから一番書きたいものを選んでいます」。

湘南時代の思い出は体育祭。「競技パートといって、1～3年生までの120人をどの競技に出場させるか、担当者で決め、練習も統括。身長や体重、50㍍走のタイムなどを聞き、騎馬戦の騎馬は身長180㌢でそろえたり、上にはすばしっこそうな選手を、と」。結果、チームの順位は一気に浮上。緻密さが効を奏した。

世界舞台へ 奨学金

湘友会 海外経験を支援

県立湘南高校の同窓会「湘友会」は2018年7月、海外での活躍を目指す在校生と卒業生（卒業2年以内）を対象に奨学金を給付する「一般財団法人湘友会奨学財団」を設立、翌19年2月、県立高校の同窓会組織による奨学財団としては初めて「公益財団法人」の認定を県から受けた。

湘友会と財団のトップを務める上野孝氏は、大学卒業後に英国オックスフォード大学院に留学した経験があり、「若いうちに海外の経験をした方がいい」と推進。世界で活躍するリーダーを育てるべく、次の百年を見据えた先輩たちからの贈り物だ。

同校は、創立90周年の11年から「私たちの舞台は世界です」をスクールモットーとし、世界で活躍する人材を育成することに注力。湘友会も学校と提携して13年から、3月下旬に8日間ほどの海外研修旅行を実施。「姉妹校交流や海外修学旅行とは異なり、事前にネイティブから3カ月間、語学の研修を受けさせ、研修先の大学では、英語の講義などを聴講、ディスカッションなどをさせるのが特色」と小室敦彦湘友会副会長。国際社会で必要とされる資質の必要性を体験してもらうのが狙いだ。

17年、18年には、ノーベル化学賞を受賞した、同校卒業生の根岸英一博士が教えていた米国パデュー大学を訪問している。

こうした研修とは別に個人で、①短期海外研修②海外留学③TOEFL検定や英語ディベート参加など、海外志向の国内の活動④経済的理由で大学進学が困難な生徒たちの進学奨学金―を支援するのが奨学財団だ。

これまでに卒業生などから計1億5千万円以上の厚志が集まった。設立した18年度は、試行として米国での研修計6人に総額60万円を給付。公益財団化に伴い、20年度から制度を本格化、毎年計700万円を給付する予定でいたが、コロナ禍で縮小を余儀なくされ、20年度は、海外留学・研修と同等の効果が期待できる国内オンライン研修に奨学金を給付した。それでもこの3年間余りで延べ39人に計816万円を給付している。

式典や特別番組 記念事業が続々

湘南高校と湘友会は百周年記念事業として記念式典のほか、記念誌発行などを予定。tvkで特別番組も放送される。

メインとなる百周年記念式典は11月2日、午後2時から、県民ホールで行われる。ライブ配信は関係者限定で行われるが、12月1日からは一般の人も視聴できるアーカイブ配信（一部コンテンツ非公開予定）が行われる。詳細は、湘友会ホームページ。

また、41回生で画家の廣田雷風さんがモニュメント「飛翔（ひしょう）」＝写真＝を制作。陶片・ガラス・大理石を素材にしたモザイク壁画で、湘南生の多様で多才な挑戦を「知性の翼」と「情熱の翼」で表現。世界に羽ばたく未来の湘南生へのエールとなっている。

このほか、同校百周年を記念した番組「湘南高校百年 文武両道の核心～初代校長赤木愛太郎の理想」（仮題）が制作され、2022年1月8日午後6時半からtvk（テレビ神奈川）で放送予定。北原白秋作の校歌や野球部の全国制覇など同校歴史の秘話を紹介する。

根岸さんが進路相談

研修旅行

「焦らず、自分に自信をもって何事にも取り組めばいい」。今年6月に亡くなった、2010年ノーベル化学賞受賞で湘南高校OBの根岸英一さんの、この言葉が忘れられないと立教大観光学部3年真子瑞生さん(20)。

17年春、湘友会が支援する、海外研修旅行で米国パデュー大を訪れた44人の一人だ。根岸さんは、生徒たちを自宅に招き、パーティーもセット。緊張していた一人ひとりに気さくに対応。ノーベル賞のメダルを持たせての記念写真撮影に応じ、進路相談にも答えてくれた。

「高校まではただレールの上を歩んできた感じだが、大学や将来やりたいことなどが決まってなく不安だった」。そんな真子さんに、根岸さんは「自分は、初めは電気工学をやりたかったが、当時成長していた化学に変えてノーベル賞をとったように、案外最初は好きでなくとも取り組むうちに好きになっていくこともある」と前置きし、アドバイスしてくれたという。

湘南高校の海外研修旅行で、生徒との集合写真だけではなく、個別の記念撮影にも応じてくれた根岸さん(左)。右は真子さん

「すごく励まされ、それまで感じていた不安がすっかり消えました」

研修旅行も「海外の学生が自分のビジョンを明確に持って学ぶ姿が刺激になった。英語の重要性もよく分かった」と振り返る。国際コミュニケーション英語能力テスト（TOEIC）も300点以上アップさせ、テーマパーク関連企業に就職し、世界の人に楽しんでもらうという夢に向かって進んでいる。

湘南高校の歩み

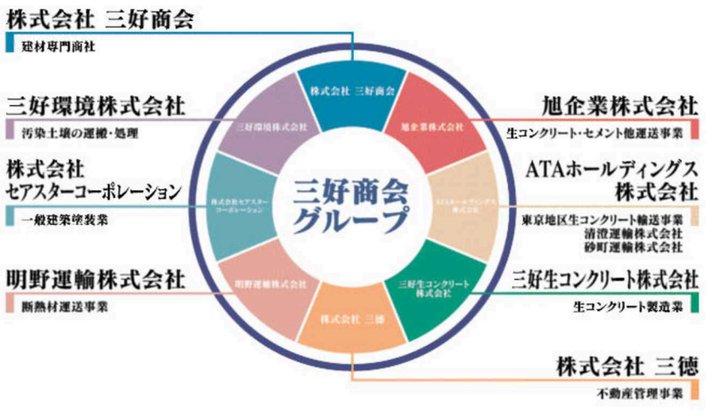
大正	
1920年	県立湘南中学校設立認可（県内6番目の旧制中学）
21年	初代校長として赤木愛太郎が赴任（1948年1月まで校長）、開校。
22年	三位一体（学校・家庭・生徒）の訓育目標と三育一体（知育・徳育・体育）の教育目標を定める
昭和	
30年	プール完成。翌年、運動場拡張。職員・生徒の拠金と勤労奉仕による
33年	校歌制定（北原白秋作詞、山田耕筰作曲）
46年	蹴球（サッカー）部が第1回国民体育大会で全国優勝
48年	学制改革により県立湘南高校と改称（6・3・3制のスタート）、定時制、通信制課程設置
49年	硬式野球部が全国高校野球選手権大会夏の大会で優勝
50年	男女共学となる（女子1期生59人）。翌年10月の創立30周年記念式典に天野貞祐文部大臣が異例の出席、女子教育への期待を述べる
57年	埼玉県立浦和高校と定期戦（浦高戦）スタート（2002年まで続く）
58年	本館と付属建物約3052平方㍍焼失
59年	旧校舎本館完成。その後、1985年まで順次完成
61年	新校旗制定
72年	創立50周年記念と特別教棟落成記念式典
74年	武道館（旧講堂）焼失
85年	格技場完成
平成	
93年	校舎全面建て替えのため取り壊し、仮設校舎へ移転
95年	現在の校舎完成。セミナーハウス（清明会館）、多目的ホール（湘南会館）、第1・第2体育館、弓道場完成
2001年	創立80周年記念式典
04年	国際交流委員会、米・姉妹校セントラル高校訪問
05年	学区制廃止
07年	県教育委員会から学力向上進学重点校に指定
08年	県立高校改革により、通信課程制は県立平沼高校と統合し独立校の横浜修悠館高校へ移行
09年	定時制の課程が単位制に
10年	根岸英一氏のノーベル化学賞受賞記念講演
11年	創立90周年記念事業実施
12年	湘南高校歴史館開館
13年	在校生の第1回海外研修旅行実施
18年	湘友会奨学財団設立
令和	
21年	創立100周年記念事業実施

事業内容　救急医療・災害医療・救助の国内外の優れた資器材取り扱い
- 救急医療資機材の輸入、販売、卸
- 一般医療用資機材の輸入、販売、卸
- 看護・介護用資機材の輸入、販売、卸
- 医療用ベッド、病棟備品の販売
- 救急他各種ソフトウエアの開発、販売　その他

救急救助災害機器専門商社
株式会社 ワコー商事
WAKO SHOJI CO.,LTD.
本社：〒251-0871　藤沢市善行 7-3-5 ブランシェビル 2F
TEL：0466-84-2485　FAX：0466-84-2484
URL：http://www.wako-shoji.com

田辺総合法律事務所
TANABE & PARTNERS
様々な専門分野のグループを構成して研鑽し総合性と専門性を高め、臨床法務から予防法務・戦略法務まで幅広い分野の法律問題に質の高い対応ができるリーガルサービスの「総合病院」を目指しています。
弁護士 藤田 耕三（全25回）　弁護士 田辺 克彦（全36回）　弁護士 原田 國男（全38回）
弁護士 田辺 邦子（全38回）　弁護士 田辺 信彦（全40回）　弁護士 田辺 泰彦（全78回）
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番2号 新日石ビル10階　電話：(03)3214-3811　FAX：(03)3214-3810
E-mail：info@tanabe-partners.com　URL：http://www.tanabe-partners.com/

都市開発の基礎を支える、
藤沢市発祥の建材商社



株式会社 三好商会（ミヨシショウカイ MIYOSHI SHOUKAI）
代表取締役会長　水品 正博（全35回）
代表取締役社長　水品 洋一
〒220-0004神奈川県横浜市西区北幸2-8-4
横浜西口KNビル13F
TEL 045-328-3440（代表）
https://www.mys.co.jp/
横浜支店／湘南支店／東京支店／千葉支店／大阪支店
硝子事業部／建材事業部／君津事業部

創業1869年3月
UYENO
上野トランステック株式会社
代表取締役会長CEO 上野 孝（全38回）
【本社】神奈川県横浜市中区山下町46番地 第1上野ビル TEL:045-671-7535
【東京本社】東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 霞が関ビルディング7階 TEL:03-6747-3173
http://www.uyeno-group.co.jp/